熊本大学教育学部附属中学校

ピンチをチャンスに！
双方向のオンライン授業への挑戦

4月、熊本では約1ヶ月の休校が決定し、本校もオンライン授業を行うことを決断した。しかも、目指す授業は、本校綱領の「響き合いの精神」を基調にした双方向のオンライン授業である。しかし、この時点でZoom会議を経験したことがある職員はわずか2名、他の職員は全くの素人という状態であった。さらに、ハード面は全校生徒540名に対して生徒用のipadが80台、モバイルパソコン40台、教職員25名に対してipad12台という状況であった。しかし、何もしなければ、子どもたちの学びは止まったままである。このピンチは必ずチャンスに代わると信じ、オンライン授業に向けた準備をはじめた。

さっそく、各家庭の実態を調査し、端末がない家庭にはipad等を貸し出した。大学にはZoomのライセンス購入と学部の情報教育の教員にオンライン授業の研修を依頼。オンライン授業に関するルール作りなど全職員での準備の結果、4月20日にはZoomによるオンライン授業をスタートすることができた。最初の1週間は1日に2～3時間の授業を行い4月30日からは1日に5時間の授業を行うまでになった。その結果、行事の削減もあり9教科の授業時数は例年並の時数を5月末には確保できた。（5月末までは完全にオンライン授業を実施）さらにオンライン授業でのワークシート等の生徒とのやりとりに、大学が管理するクラウドサービスの活用も可能となった。また、職員はオンライン授業の内容をより充実するために、5月19日の校内研修（数学の授業研）を皮切りに各教科ともZoomによる研究授業をぞくぞくと実施し、そのノウハウの蓄積に努めるようになった。オンラインでの授業研究会には県外の先生が参加する等、その可能性がおおいに広がった。

オンライン授業の発信の様子

本校でのオンライン授業に関するアンケートによると、約8割の生徒が「授業の雰囲気が良かった」と回答。生徒は、好意的に授業を受けている。また、Zoomの利用は授業だけでなく生徒間にも広がった。生徒会役員がZoom会議をおこない、全校生徒に向けた動画を作成したのである。さらに本校の実践は地域の学校に広がり、情報提供するだけでなくipad20台を近隣の中学校に貸し出しオンライン授業の推進に役立ててもらっている。

今年度10月9日（金）には、各教科、文部科学省の教科調査官等を招きオンラインによる研究発表会を実施する。オンラインでの授業研究の可能性と新学習指導要領で目指す教育について提案する予定である。詳しくは本校ホームページをご覧ください。

各家庭でのオンラインでの体育授業の様子